

第4回「船舶からの大気汚染物質放出規制海域（ECA）に関する技術検討委員会」
開催結果について

1. 開催日時・場所

日時：平成23年12月15日（木）10：00～12：00

場所：国土交通省中央合同庁舎2号館15階海事局会議室

2. 委員名簿：別紙参照

3. 議事概要：

(1)大気汚染シミュレーションの実施状況及び今後の検討の進め方について

①現況(2005年)における大気汚染シミュレーションの実施状況について

事務局より、整備された排出量データをもとに、現況(2005年時点)の大気汚染シミュレーションの結果及びシミュレーション結果と観測値との比較結果について説明があった。議論の結果、今後はこのシミュレーションモデルをもとに作業を実施していくこととなった。

②将来(2020年)における大気汚染シミュレーションについて

将来(2020年)の大気汚染シミュレーションの実施には、2020年時点における自動車、船舶等の活動量等を基に大気汚染物質の排出量を推計する必要があることから、事務局より2020年の船舶等の活動量等の仮定について説明を行った。議論の結果、事務局案の仮定を基にした大気汚染物質の排出量の推計を行い、将来の大気汚染シミュレーションを実施することとなった。

(2)ECA設定に伴う経済的影響の検討方法及び船用燃料油供給サイドへの影響調査について

①ECA設定に伴う経済的影響の調査について

今後のECA設定による海運に対する経済的影響の検討方法について事務局より説明があり、議論を行った。各委員の主な意見は以下のとおり。

- ・スクラバーの設置といった代替措置、改造による船舶の不稼働損失、また漁船へのSCR搭載等についてもコストとして検討すべき。
- ・船舶及び運航に関連する直接的なコストについてだけでなく、2次的な経済効果も評価すべき。

本調査については引き続き、関係者の協力を得ながら作業を進めることとなった。

②船舶の燃料油補給状況

外航船、内航船、漁船別に日本国内での燃料油補給についての調査結果について説明があった。

(3)ECA導入に対する石油業界及び水産業界での対応の検討について

石油連盟よりECA導入による燃料油供給体制について、また(社)大日本水産会より漁船へのNOx低減装置搭載等に対する検討結果について、それぞれ説明が行われた。

(4)その他

事務局より、現在の作業の進捗を踏まえ、平成24年度も検討を継続する旨説明があった。

以上

船舶からの大気汚染物質放出規制海域（ECA）に関する技術検討委員会
（ECA 技術委員会） 委員名簿（敬称略、順不同）

委員長	若松 伸司	愛媛大学 農学部 生物環境保全学 大気環境科学研究室 教授
委員	速水 洋	（財）電力中央研究所 環境科学研究所 大気・海洋環境領域 上席研究員
	佐藤 徹	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 海洋技術環境学専攻 教授
	岡田 啓	東京都市大学 環境情報学部 環境情報学科 講師
	前田 和幸	水産大学校 海洋機械工学科 教授
	千田 哲也	（独）海上技術安全研究所 海洋環境評価系長 兼 研究統括主幹
	洲之内 満彦	（社）日本船主協会 工務幹事会 幹事長
	内藤 吉起	日本内航海運組合総連合会 理事
	山口 祐二	（社）日本造船工業会 技術部 部長
	田中 春夫	（社）日本船用工業会 大形機関技術委員会 委員長
	木上 正士	（社）大日本水産会 事業部 次長
	金子 タカシ	石油連盟 技術委員会 民生・産業用燃料専門委員会 委員
関係官庁	弥元 伸也	環境省 水・大気環境局 自動車環境対策課長
	武井 篤	水産庁 増殖推進部 研究指導課長
	大石 英一郎	国土交通省 総合政策局 海洋政策課長
	平原 祐	国土交通省 海事局 安全基準課長